



第11回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2017
ランチョンセミナー 2

難治性皮膚そう痒症 克服を目指して

日時 2017年 9月30日(土) 11:45~12:35

場所 **第2会場** (福岡国際会議場 2F 201+202)

〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1 TEL 092-262-4111

座長 兵庫医科大学病院 薬剤部 部長 **木村 健** 先生

講演 **1** 「透析患者のかゆみは克服できるか？」

新潟大学医歯学総合病院 血液浄化療法部 准教授 **山本 卓** 先生

講演 **2** 「透析患者の服薬アドヒアランス向上を目的とした口腔内崩壊錠の臨床的機能性」

静岡県立大学薬学部実践薬学分野 薬食生命科学総合学府薬学研究院 教授 **並木 徳之** 先生

難治性皮膚そう痒症 克服を目指して

講演 1 「透析患者のかゆみは克服できるか？」

新潟大学医歯学総合病院 血液浄化療法部 准教授 **山本 卓** 先生

腎不全患者に高頻度に合併する「かゆみ」は、尿毒症性掻痒症といわれ、慢性腎臓病の病態が大きく影響していると考えられています。これまでの調査・報告では透析患者の実に70-80%が多かれ少なかれかゆみを自覚していること、重度なかゆみは生命予後にも関連することが報告されています。

透析患者のかゆみの原因は不明な点が多いですが、皮膚乾燥、アレルギー、炎症反応、透析不足、CKD-MBDそしてオピオイド受容体活性の変化などが複雑に影響していると考えられます。したがって、それらを総合的に治療する必要がありますが、症状の程度の把握がメディカルスタッフで困難なこと、原因が多彩であることから治療を重ねた結果ポリファーマシーの一因となることが問題です。

本セミナーでは尿毒症性掻痒症の現状を把握したうえ、原因とそれに対する治療を多面的に検討し、かゆみを克服するための将来的な展望をみなさんと考えたいと思います。

経 歴

1998年5月 新潟大学医学部付属病院
1999年5月 新潟労災病院
2000年5月 新潟大学第二内科
2000年7月 新潟県立中央病院
2001年1月 頸南病院
2001年7月 福井医科大学第二病理学教室
2003年7月 新潟大学医歯学総合病院
2004年7月 厚生連長岡中央総合病院
2006年7月 新潟大学第二内科(医員)
2008年4月 ハンタービルト大学小児科
2011年4月 新潟大学第二内科
2011年5月 新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎医学医療センター
2015年5月 新潟大学医歯学総合病院 腎・膠原病内科
2016年7月 新潟大学医歯学総合病院 血液浄化療法部

学会等における活動状況

日本腎臓学会(腎臓専門医、日本腎臓学会サポーター)、日本内科学会(総合内科専門医、内科指導医)、日本透析医学会(透析専門医、指導医)、日本高血圧学会、日本老年医学会、日本動脈硬化学会、American Society of Nephrology、International Society of Nephrology

その他

自治医科大学 臨床検査医学講座 客員研究員
J-DOPPS CKD-MBD ワーキンググループ
難治性疾患等政策研究事業 アミロイドーシスに関する調査研究 研究協力者

講演 2 「透析患者の服薬アドヒアランス向上を目的とした口腔内崩壊錠の臨床的機能性」

静岡県立大学薬学部実践薬学分野 薬食生命科学総合学府薬学研究院 教授 **並木 徳之** 先生

昨今の新薬開発は、その標的が細胞へとマクロに分化し、再生医療の進歩と呼応して、人類はこれまで以上に優れた新薬を手に入れることができると期待されている。しかし、臨床では全ての患者がその恩恵を十分に受けることができているかは疑問である。当然のことながら、如何に優れた薬剤であっても、患者が服薬、あるいは使用してくれなければ、期待する治療効果を得ることはできない。

ところで、低い服薬アドヒアランスは患者サイドの責任とされる傾向にあるが、薬剤サイドにもその原因があると考えられる。そこで、医療では臨床的機能性をもつ製剤が目ざされている。臨床的機能性とは、服薬アドヒアランスを向上させ期待する治療効果が得られる可能性を高める製剤特性のことで、薬剤の治療効果は臨床的機能性によって左右されるといっても過言ではない。口腔内崩壊錠(OD錠)は、嚥下し易く、飲水を減らせるなどの臨床的機能性を有することから、服薬アドヒアランスの向上に期待がもてる。

透析患者の掻痒は深刻な問題であるが、服薬する剤数が比較的多く、飲水が制限されている患者では、服薬アドヒアランスは良好とは言い難い。そこで、レミッチOD錠が開発された。本講では、レミッチOD錠の臨床的機能性について考察する。

経 歴

1979年3月 東京薬科大学薬学部卒業
1979年4月 東京慈恵会医科大学附属病院薬局 入局
1998年3月 薬学博士号取得
(小児用Gミ製剤に関する研究：東京薬科大学)
2008年4月 静岡県立大学薬学部教授に着任
2009年4月 静岡県立大学大学院薬学研究院教授を兼務
2014年5月 日本薬剤学会から「製剤の達人」の称号を授与される
現在に至る

学会等における活動状況

日本薬学会(代議員)、日本薬剤学会(評議委員、第33年年会会長)